

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	出発 1時間(読①) 教:6上p①～1 ◇吟味された言葉や表現の工夫に着目しながら様子を思い浮かべ、感じたことが伝わるよう、表現豊かに音読することができる。(知:(1)文、語:(1)エ)	①「出発」を音読し、めあてを確認する。 ②感想や表現の工夫について出し合う。 ③様子や気持ちが伝わるように音読する。 ④学習の振り返りをする。	知 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] 読 ○全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○進んで吟味された言葉や表現の工夫に着目し、学習課題に沿って朗読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉をつなげる プラス思考でアドバイス 2時間(話②) 教:6上p14～15 ◇友達の悩みの解決策を話し合い、見方を変えてみることで、考えを広げることができる。(知:(1)ア、語:(1)オ)	①これまで相談した経験を想起する。 ②アドバイスするとき大切なことを整理する。 ③各自でお悩みカードを書く。 ④グループごとにカードを引き、アドバイスをし合う。 ⑤今後に生かすポイントを整理し、学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 話 ○意図を明確にしながら話し合い、考えを広げることができる。[思・判・表A(1)オ] 学 ○進んで友達の悩みを解決する方法について考え、今までの学習を生かして様々な視点から話し合おうとしている。[学びに向かう力、人間性等]
	1 変化の要因をとらえて読もう 誓約書 6時間(読⑥) 教:6上p16～29 ◇人物相互の関係や過去の出来事と結び付けながら作品の全体像をつかみ、人物の心情とその変化の要因を捉えることができる。(知:(1)ケ、(2)イ、語:(1)イ、エ、(2)イ)	①全文を読み、登場人物や場面の変化を確認する。 ②初発の感想をまとめる。 ③人物関係図にまとめ、物語の構造をつかむ。 ④人物同士の関係からそれぞれの人物の心情を読み取る。 ⑤人物の心情の変化、人物の立場の違い、出来事や展開、表現の効果などの観点で作品をまとめる。 ⑥友達と感想を交流し、自分の考えを深める。 ⑦読み取ったことを生かして、表現豊かに音読する。	知 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] 読 ○図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] 読 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] 学 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○進んで人物同士の関係や回想形式の語りなどを確かめ、学習課題に沿って読み深めようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉のきまり1 前後のつながりを示す言葉 3時間(知③) 教:6上p30～33 ◇文と文との関係から接続語の働きを理解し、適切に使うことができる。(知:(1)オ、カ)	①接続語を分類し、気付いたことを出し合う。 ②例文を比べ、接続語の種類や働きを捉える。 ③例文を読み、接続詞の働きについて知る。 ④接続語を使って文作りをし、友達と確かめ合う。 ⑤接続助詞の働きを捉え、設問に取り組む。 ⑥前後のつながりを示す言葉を使って、クイズを作る。	知 ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 学 ○文と文との接続の関係について理解することができる。[知・技(1)カ] 学 ○進んで文と文との接続の関係を理解し、これまでの学習を生かして、適切に使う。[学びに向かう力、人間性等]
5月	季節のたより 春 1時間(書①) 教:6上p34～35 ◇春を表す言葉とその意味を知り、春や季節の移り変わりから感じたことをもとに、短歌を作ることができる。(知:(3)ア、書:(1)カ)	①「春の小川」の歌詞を読み、春の情景や経験などを想起する。 ②教科書を見て、二十四節気を知る。 ③季節の移り変わりの中から短歌にしたい出来事を選び、短歌文を書く。 ④短歌文をもとに短歌を作る。 ⑤作った短歌を鑑賞する。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○親しみやすい近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア] 書 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ] 学 ○進んで言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習を生かして、短歌を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
5月	言葉の泉 1 漢字の成り立ち 2時間(知技②) 教:6上p36～38 ◇漢字の成り立ちや形声文字の音符について理解することができる。(知:(3)ウ)	①既習事項を振り返る。 ②漢字の成り立ちについて、それぞれの特徴を捉える。 ③設問に取り組む。 ④形声文字について設問に取り組み、理解を深める。 ⑤調べたい漢字を選び、漢字の成り立ちを調べる。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○漢字の由来、特質などについて理解することができる。[知・技(3)ウ] 学 ○進んで漢字の成り立ちについて理解し、学習課題に沿って漢字を調べようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	5年生で習った漢字① 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書①) 教:6上p39 ◇5年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知:(1)エ、書:(1)オ)	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確認し合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉を受け止めよう 話し合ってまとめよう 2時間(話②) 教:6上p40～41 ◇話し合いの目的を意識して話し合い、互いの立場を考慮しながら、考えを一つにまとめることができる。(知:(1)ア、話:(1)エ、オ)	①学習課題と活動の進め方を確かめる。 ②それぞれの消しゴムの特徴を出し合う。 ③消しゴムの特徴を表に整理する。 ④消しゴムを選ぶ目的や条件を確かめ、グループでどの消しゴムにするかを話し合う。 ⑤共感的に聞き合い、みんなが納得できるように考えをまとめる。 ⑥納得するまで話し合うことによさについて話し合い、学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 話 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。[思・判・表A(1)ア] 学 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめることができる。[思・判・表A(1)オ] 学 ○積極的に友達と関わり、学習課題に沿って目的に向かい、意見をまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	2視野を広げて読もう AIで言葉と向き合う 5時間(読⑤) 教:6上p42～53 ◇筆者の意見と事例との関係を捉え、論の進め方を考えながら要旨をまとめ、見方を広げることができる。(知:(1)オ、カ、読:(1)ア、ウ、オ、カ、(2)ア)	①AIについて知っていることを出し合う。 ②全文を読み、問いと答えの関係を見つけて、全体を三つに分ける。 ③事例のまとまりを押さえ、筆者の取り組みをまとめる。 ④筆者の考えと事例の関係を押さえ、要旨をまとめる。 ⑤後続の教材文を読み、賛同できるかどうかを考える。 ⑥二つの文章を比べ、これからの生活におけるAIとの関わりについて、自分の考えを書く。 ⑦グループで読み合い、感想を伝え合う。	知 ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識している。[知・技(1)オ] 知 ○話や文章の構成や展開について理解することができる。[知・技(1)カ] 読 ○事実と意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。[思・判・表C(1)ア] 学 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。[思・判・表C(1)ウ] 学 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ] 学 ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで筆者の意見に説得力をもたせるための論の進め方について考え、学習課題に沿って要旨をつかもうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
6月	<p>文章の書き方・まとめ方 さまざまな表現の工夫 4時間(書④) 教:6上p54～56</p> <p>◇様々な表現技法を知り、詩や作文の表現を工夫して書くことができる。〔知〕:(1)ウ、書:(1)ア、オ)</p>	<p>①提示された詩を読み、使われている技法について出し合う。 ②技法の解説を読み、使われている表現の工夫について知る。 ③教科書の作文を読み、使われている表現の工夫について話し合う。 ④日常生活の中から題材を選び、表現を工夫しながら作文や詩を書く。 ⑤友達と読み合い、内容や表現のよさについて感想を伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。〔知・技(1)ク〕 書 ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。〔思・判・表 B(1)ア〕 学 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。〔思・判・表 B(1)オ〕 学 ○進んで表現技法とその効果を考え、今までの学習を生かして詩や作文を書いて共有しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>漢字の広場 1 1時間(知技①) 教:6上p57</p> <p>◇六年生に担当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。〔知〕:(1)エ)</p>	<p>①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。</p>	<p>知 ○第六学年においては、学年別漢字担当表の当該学年までに担当されている漢字を読むことができる。〔知・技(1)エ〕 学 ○進んで六年生に担当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>3 立場を決めて討論しよう パネルディスカッションをしよう 8時間(話聞⑧) 教:6上p58～65</p> <p>◇役割や意図を明確にして計画的に話し合い、自分の考えを深めることができる。〔知〕:(2)イ、聞:(1)ア、ウ、オ、(2)ウ)</p>	<p>①パネルディスカッションの役割や進め方を理解する。 ②学習課題を知り、見通しをもつ。 ③日常生活の中から、話し合うテーマを考え、似ているもので分類して決める。 ④テーマに対して自分の意見をもち、グループの提案内容を検討する。 ⑤役割を決め、提案内容と理由を考える。 ⑥発表のための資料を準備しながら考えをまとめる。 ⑦ほかのグループの提案に対する質問や意見を検討する。 ⑧提案に対する質問を予想し、解答を検討する。 ⑨司会、パネリスト、フロアに分かれ、パネルディスカッションを行う。 ⑩感想を発表し合うなどして、学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うことができる。〔知・技(2)イ〕 話 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。〔思・判・表 A(1)ア〕 学 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。〔思・判・表 A(1)ウ〕 学 ○互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。〔思・判・表 A(1)オ〕 学 ○進んでパネルディスカッションの方法や役割を理解し、学習の見通しをもって準備して話し合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
7月	<p>季節のたより 夏 1時間(書①) 教:6上p66～67</p> <p>◇夏を表す言葉とその意味を知り、夏や季節の移り変わりから感じたことをもとに、短歌を作ることができる。〔知〕:(3)ア、書:(1)カ)</p>	<p>①「夏は来ぬ」の歌詞を読み、夏の情景や経験などを想起する。 ②教科書を見て、二十四節気を知る。 ③季節の移り変わりの中から短歌にしたい出来事を選び、短歌を書く。 ④短歌をもとに短歌を作る。 ⑤作った短歌を鑑賞する。 ⑥学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○親しみやすい近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親むことができる。〔知・技(3)ア〕 書 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。〔思・判・表 B(1)カ〕 学 ○進んで言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習を生かして、短歌を作ろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
7月	<p>類推しよう 経験や知識をもとに導き出そう 2時間(知技①読①) 教:6上p68～71</p> <p>◇経験や知識をもとに類似点を見出し、類推による情報と情報との関係について理解することができる。〔知:(2)イ、読:(1)オ〕</p>	<p>①類推ゲームをして、類推の関係を理解する。 ②類推とはどのようなことであるか話し合い、その方法について考えをまとめる。 ③自分の体験にもとづいて類推したことを、話型にしたがって説明し合う。 ④類推することのよさについて話し合い、学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知・技(2)イ〕 読 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。〔思・判・表 C(1)オ〕 学 ○進んで自分の知識や経験をもとにし、学習課題に沿って類推しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>言葉をおくろう 電子メールで質問しよう 2時間(書②) 教:6上p72～73</p> <p>◇相手や目的に応じて適切な電子メールを書くことができる。〔知:(1)ア、キ、書:(1)イ、ウ、オ〕</p>	<p>①電子メールの形式を捉える。 ②電子メールで書きたいことをメモに書き留める。 ③メールで文章の下書きを打つ。 ④書いた文章を読み返し、間違いや失礼がないかなどを確かめ、文章を整える。 ⑤メールを送信後、再度確認する。</p>	<p>知 ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。〔知・技(1)ア〕 書 ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。〔知・技(1)キ〕 書 ○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。〔思・判・表 B(1)イ〕 書 ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思・判・表 B(1)ウ〕 書 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。〔思・判・表 B(1)オ〕 学 ○進んで電子メールの形式を確かめ、学習課題に沿って、適切な文章を書こうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>5年生で習った漢字② 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書①) 教:6上p74</p> <p>◇5年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。〔知:(1)エ、書:(1)オ〕</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。</p>	<p>知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。〔知・技(1)エ〕 書 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。〔思・判・表 B(1)オ〕 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>読書に親しもう 絵を見て語り合おう フリードルとテレジンの小さな画家たち 4時間(知技②読②) 教:6上p75～93</p> <p>◇作者の視点から見た人物像や作品の全体像を捉えるとともに、文章と絵とのつながりを考えることで感想をもち、読書のよさに気付くことができる。〔知:(1)カ、(3)オ、読:(1)エ、オ、(2)イ〕</p>	<p>①めあてを確かめ、学習計画を立てる。 ②本文を読み、内容の大体をつかむ。 ③気になった絵を選び、グループで分かったことや考えたことを話し合う。 ④何を描いた絵なのか、その絵を見てどんな印象を受けたかを発表する。 ⑤作品の中から、気に入った一節を書く。 ⑥本を選んで読み、気に入った一節カードを書いて、グループで交流する。 ⑦学習を振り返り、今後の読書に広げる。</p>	<p>知 ○話や文章の種類とその特徴について理解することができる。〔知・技(1)カ〕 読 ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。〔知・技(3)オ〕 読 ○物語などの全体像を具体的に想像することができる。〔思・判・表 C(1)エ〕 読 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。〔思・判・表 C(1)オ〕 学 ○進んで作品を通して自分の考えを深め、学習の見通しをもって読書のよさを実感しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
9月	詩を味わおう 名づけられた葉 きのうより一回だけ多く 2時間(読②) 教:6上p94～97 ◇表現の工夫を味わって想像したり、作者の思いを感じ取ったりしながら詩を読み、感想を伝え合うことで考えを広げることができる。 (知:(1)ク、ケ、読:(1)エ、カ、(2)イ)	①詩におけるさまざまな表現の工夫を想起する。 ②「名づけられた葉」を読み、表現の工夫を捉える。 ③三連の書き出しの続きを想像し、詩の原文と比較して自分の表現の工夫を味わう。 ④「きのうより一回だけ多く」を音読し、表現の工夫を捉える。 ⑤作者の「きみ」に対する思いを考える。 ⑥読み方を工夫して音読する。	知 ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク] 読 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] ○全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表 C(1)エ] ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○進んで詩の世界や作者の思いを捉え、学習課題に沿って詩を味わおうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	文章の書き方・まとめ方 文章構成の効果を考える 4時間(書④) 教:6上p98～101 ◇自分の考えを伝えるための適切な文章の型や書き表し方を考え、説得力のある文章を書くことができる。(知:(1)オ、カ、(2)ア、読:(1)イ)	①論の進め方による伝わり方の違いを、理由を付けて話し合う。 ②これまでに学習した三つの型を想起し、結論の箇所の位置や伝わり方の違いを確かめる。 ③P100～101の文章例を読み、伝わり方の違いや気付いたことなどを出し合う。 ④「しかし」「例えば」「確かに」などの思考に関わる言葉を使う効果について考える。 ⑤例2の進め方で意見文を書き、書いた物を読み合う。 ⑥意見文をもとに発表し合い、効果的な伝え方について感想を伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。[知・技(1)オ] ○話や文章の構成や展開について理解することができる。[知・技(1)カ] ○原因と結果など情報と情報の関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 書 ○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。[思・判・表 B(1)イ] 学 ○進んで説得力をもたせるための効果的な文章の書き方を考え、学習課題に沿って文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉のきまり2 文末の表現 1時間(知①) 教:6上p102～103 ◇述語が文末に位置する日本語の語順の特徴を理解し、文末表現を適切に使うことができる。 (知:(1)カ、キ)	①様々な文末表現を比べて、意味の違いを捉える。 ②文末表現と声の調子の関係を理解する。 ③敬体と常体について知り、その違いを理解する。 ④学習の振り返りをする。	知 ○文中での語句の係り方や語順について理解することができる。[知・技(1)カ] ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。[知・技(1)キ] 学 ○進んで文末表現の違いについて理解し、今までの学習を生かして、適切に使う。[学びに向かう力、人間性等]
	4物語の全体像を読もう きつねの窓 6時間(読⑥) 教:6上p104～121 ◇描写をもとに、人物像や心情の変化を捉えるとともに、象徴されたものや語り手による表現の効果を押さえ、まとめた自分の考えを伝え合うことができる。(知:(1)ケ、読:(1)イ、エ、オ、(2)イ)	①全文を読み、初読の感想をもつ。 ②不思議な世界への入り口と出口に着目し、物語の構造をつかむ。 ③人物像をつかむとともに、人物同士の類似点に着目し、人物の相互関係を押さえる。 ④窓について検討し、窓が象徴するものの意味を考える。 ⑤人物の心情の変化を捉え、考えを伝え合う。 ⑥窓をめぐる出来事について精査し、人物の心情や境遇の変化を捉える。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] 読 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ] ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表 C(1)エ] ○文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表 C(1)オ] 学 ○進んで人物像をつかんだり、語り手や表現方法に着目したりして、今までの学習を生かして物語の全体像を捉えようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
9月	漢字の広場 2 1時間 (知技①) 教:6上 p122 ◇六年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。(図:(1)エ)	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	知 ○第六学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで六年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
10月	5年生で習った漢字③ 言葉をつないで文を作ろう 1時間 (書①) 教:6上 p123 ◇五年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知:(1)エ、書:(1)オ)	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確認し合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉の泉 2 言葉づかいのちがいがい 2時間 (知技②) 教:6上 p124～126 ◇相手や場面に応じた言葉遣いや、話し言葉と書き言葉の特質や使い方、敬意表現について理解することができる。(図:(1)イ、キ)	①例文をもとに、相手や場面に応じた言葉遣いについて考える。 ②設問に取り組み、話す相手に合わせて言い換えをする。 ③話し言葉と書き言葉の違いについて知る。 ④様々な場面における敬語の使い方を確かめる。 ⑤設問に取り組み、敬語における話し言葉と書き言葉の違いに気付く。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。[知・技(1)イ] 書 ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。[知・技(1)キ] 学 ○進んで話し言葉と書き言葉との違いを理解し、今までの学習を生かして、適切に言葉を使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	土 1時間(読①) 教：6下p①～1 ◇吟味された言葉や表現の工夫に着目しながら、作者の心の動きや着眼点を捉え、感じたことが伝わるよう、表現豊かに音読することができる。〔知：(1)ク、ウ、読：(1)エ〕	①「土」を音読し、感想や比喻などの表現の工夫について出し合う。 ②作者の着眼点や世界観の広がりについて、感じたことを踏まえて、工夫して音読する。 ③学習の振り返りをする。	知 ○比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知・技(1)ク〕 読 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。〔知・技(1)ケ〕 ○全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。〔思・判・表C(1)エ〕 学 ○進んで吟味された言葉や表現の工夫に着目し、今までの学習を生かして音読しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	言葉から想像しよう イメージを短い詩にしよう 2時間(知技①書①) 教：6下p6～8 ◇イメージしたことを、もとに表現を工夫して短い詩を作ることができる。〔知：(1)オ、ク、書：(1)カ〕	①pp.6～7にある詩の題名とその題名が付けられた理由について話し合い、イメージしたことを短い詩で表すという学習課題をつかむ。 ②身の回りのものからテーマ(題名)を決め、考えたことや想像したことを、イメージマップに書き出す。 ③書いたイメージマップをもとに、類似した特徴をもった事柄に置きかえ、短い詩を作る。 ④作った詩を読み合ったり、クイズ形式で題名を答え合ったりし、発想のおもしろさや表現の工夫などについて、感想を伝え合う。 ⑤学習の振り返りをする。	知 ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。〔知・技(1)オ〕 ○比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知・技(1)ク〕 書 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。〔思・判・表B(1)カ〕 学 ○進んで言葉の感覚を意識して、学習課題に沿ってイメージしたことを短い詩に表そうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	1 筆者の提案を読み、意見文を書こう 「本物の森」で未来を守る 9時間(書⑥読④) 教：6下p9～23 ◇事実と意見との関係を押さえて要旨をまとめ、論の進め方や筆者の意見に対する自分の考えを伝え合うことができる。 ◇違った視点で書かれた複数の文章をもとに自分の考えを深め、自分の立場に合った事例を関連付けて整理し、書き表し方を工夫しながら説得力のある意見文を書くことができる。〔知：(2)イ、書：(1)イ、ウ、カ、(2)ア、読：(1)エ、オ、(2)ア〕	①めあてを確かめ、題名から内容を考える。 ②本文を読み、感想を交流するとともに、筆者の意見を捉える。 ③事例を整理し、筆者の提案理由を考える。 ④筆者の意見に対する自分の意見をまとめる。 ⑤複数の意見を比べて、自分の考えを深める。 ⑥自分の考えの根拠となる文を書き出し、表に整理する。 ⑦意見文を書き、伝え合う。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知・技(2)イ〕 書 ○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。〔思・判・表B(1)イ〕 ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思・判・表B(1)ウ〕 読 ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。〔思・判・表B(1)カ〕 ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。〔思・判・表C(1)ア〕 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。〔思・判・表C(1)オ〕 学 ○進んで読んで理解したことをもとに自分の考えをもち、学習課題に沿って意見文を書こうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	季節のたより 秋 1時間(書①) 教：6下p24～25 ◇秋を表す言葉とその意味を知り、秋や季節の移り変わりから感じたことをもとに、短歌を作ることができる。〔知：(3)ア、書：(1)カ、(2)イ〕	①教科書を見て、二十四節気の解説や秋の唱歌を読む。(興味に応じて秋にまつわる他の唱歌を集めても良い。) ②秋から広がるイメージや季節の移り変わりについて、感じたことを短歌にする。	知 ○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。〔知・技(3)ア〕 書 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。〔思・判・表B(1)カ〕 学 ○進んで言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習を生かして、短歌を作ろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
11月	言葉の文化を体験しよう 狂言 盆山／漢詩 4時間(知技②読②) 教：6下p26～35 ◇狂言や漢詩の内容を捉え、音読することで、昔の人のものの見方や感じ方に気付いたり、リズムや言い回しなどの表現を楽しんだりすることができる。〔知：(1)ケ、(3)ア、読：(1)エ〕	①教材文を読み、狂言について知る。 ②「盆山」の朗読CDや映像を視聴し、狂言独特の表現に気付く。 ③「盆山」を音読し、話のすじをつかんだり、表現を楽しんだりする。 ④お話の続きや結末を考え、発表する。 ⑤演者の声の出し方について考えながら演じたり、感想を交流したりする。 ⑥様々な伝統芸能について知る。 ⑦漢詩の解説を読み、「胡隠君を尋ぬ」を音読・暗唱する。 ⑧繰り返しの表現などから、どのような印象を受けるか、感想を伝え合う。 ⑨白文の漢字の語順を書き下し文と比べ、違いに気付く。	知 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。〔知・技(1)ケ〕 書 ○親しみやすい古文や漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。〔知・技(3)ア〕 読 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。〔思・判・表C(1)エ〕 学 ○進んで狂言や漢詩に親しみ、学習課題に沿って音読しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	漢字の広場 1 1時間(知技①) 教：6下p36 ◇六年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。〔知：(1)エ〕	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	知 ○第6学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。〔知・技(1)エ〕 学 ○進んで6年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	言葉をつないで文を作ろう 1 1時間(書①) 教：6下p37 ◇五年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。〔知：(1)エ、書：(1)オ〕	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。〔知・技(1)エ〕 書 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。〔思・判・表B(1)オ〕 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
11月	豊かに表現しよう 「連詩」を発見する 心と言葉でつながろう 6時間(書⑥) 教：6下p38～45 ◇言葉から想像したことをもとに、つながりを考えて連詩を作ることができる。(知：(1)エ、オ、ク、書：(1)ア、カ)	①教科書 pp.38～41[「連詩」を発見する]を読み、連詩について知る。 ②友達と連詩を作るという学習課題や進め方を確かめる。 ③pp.42～43に例示された作品を読み、連同士のつながりについて気付いたことを出したし合い、「4」に続く5行の詩を作る。 ④グループを作り、詩を書く順番とテーマ、詩を作る際の約束事を決める。 ⑤グループで連詩を作る。 ⑥作った連詩を読み合い、分かったことや感じたことを伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。[知・技(1)オ] ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク] 書 ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ] 学 ○進んで言葉を通してイメージをつなげ、学習課題に沿って連詩を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	対話して読む：物語を通して自分を見つめよう 服を着たゾウ 3時間(読③) 教：6下p46～54 ◇つぶやくように対話して読んだり、作者のメッセージを考えながら読んだりすることで、作品の読み方を広げることができる。(知：(1)ケ、書：(1)イ、エ、オ)	①本文を読み、「基本的な手がかり」を確かめる。 ②「つぶやき」を参考にし、問いをもちながら考えたり、共感しながら読んだりする。 ③読んで感じたことや解説文をもとに、感想を伝え合う。 ④学習の振り返りをする。	知 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ] 学 ○進んで読み方や自分の見方・考え方を広げ、学習課題に沿って物語や作者と対話しながら読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]
12月	5年生で習った漢字② 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書①) 教：6下p55 ◇5年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知：(1)エ、書：(1)オ)	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉の泉1 熟語の構成 1時間(知技①) 教：6下p56～57 ◇三字以上の熟語の構成を理解することができる。(知：(1)エ)	①教科書を見て、三字以上の熟語の構成や特徴を確かめる。 ②p.57の課題に取り組み、熟語の構成について友達と確かめ合う。 ③身の回りや国語辞典から熟語を探し、それらの構成について調べたことを友達と出し合う。	知 ○第6学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで熟語の構成を理解し、今までの学習を生かして、漢字のもつ意味を考えようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
12月	2 スピーチをしよう すいませんします、この委員会活動 8時間（話聞⑨） 教：6下 p58～62 ◇推薦する委員会の魅力が伝わるように、話の内容や構成を考えて話すことができる。（知：(1)イ、語：(1)ア、イ、エ、(2)ア）	①学習課題とめあてを捉え、見直しをもつ。 ②これまでのスピーチ学習について振り返る。 ③委員会の活動内容や魅力について書き出し、表に整理する。 ④スピーチの構成を考え、友達の意見を参考にしながら、構成メモにまとめる。 ⑤構成メモをもとに、グループ内でスピーチの練習をし、資料や話し方について助言し合う。 ⑥アドバイスをもとに、スピーチメモをまとめ、資料があれば用意する。 ⑦スピーチメモをもとに、練習を生かしてスピーチをする。 ⑧自分のスピーチの工夫点などについて、学習の振り返りをする。	知 ○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。[知・技(1)イ] 話 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。[思・判・表A(1)ア] ○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。[思・判・表A(1)イ] 学 ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表A(1)エ] ○進んで話す内容や構成を考え、学習の見直しをもって推薦内容を発表しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	漢字の広場 2 1時間（知技①） 教：6下 p63 ◇六年生に担当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。（知：(1)エ）	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	知 ○第6学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで6年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	読書を広げよう 本は心の道しるべ 1時間（知技①） 教：6下 p64～67 ◇読書の楽しさや有効性を知り、日常的に読書に親しむことができる。（知：(3)オ）	①教科書本文を読み、本を読む意義や、読書による興味の広がりについて考える。 ②今までの読書経験を振り返り、読んだ本を書き出し、「本の旅」を参考にして、線でつないで表す。 ③「本の旅」を友達と見せ合い、自分の興味の広がりや考えの深まりなど、気付いたことを交流する。 ④読書の部屋を見て、多様なものの見方や考え方に触れ、興味が広がっていく読書の良さに気付く。	知 ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。[知・技(3)オ] 学 ○進んで読書に親しみ、今までの学習を生かして読書による自分の世界の広がりについて考えようとする。[学びに向かう力、人間性等]
1月	季節のたより 冬 1時間（書①） 教：6下 p68～69 ◇冬を表す言葉とその意味を知り、冬や季節の移り変わりから感じたことをもとに、短歌を作ることができる。（知：(3)ア、語：(1)カ、(2)イ）	①教科書を見て、二十四節気の解説や冬の唱歌を読む。（興味に応じて冬にまつわる他の唱歌を集めても良い。） ②冬から広がるイメージや季節の移り変わりについて、感じたことを短歌にする。	知 ○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア] 書 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ] 学 ○進んで言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習を生かして、短歌を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
1月	3 今の気持ちを書き残そう 自分を見つめてみよう 8時間(書⑥) 教：6下p70～73 ◇事実や経験をもとに、感じたことや考えたこと、自分にとっての意味について、表現を工夫して文章を書くことができる。(知：(1)カ、 書：(1)ア、ウ、オ、(2)ウ)	①学習のめあてや課題を確かめる。 ②例示された文章を読み、筆者がどのような見方や考え方をしているかを話し合う。 ③今考えていることや感じていること、自分が大切にしていることなどから、自由に書きたいことを選ぶ。 ④選んだことについて、事実やエピソード、自分の思いや考えを、メモに書き出す。 ⑤メモをもとに、エピソードと自分の考えがつながるように構成を考え、構成表にまとめる。 ⑥構成表をもとに、表現を工夫して文章を書く。 ⑦書いたものに助言し合い、推敲する。 ⑧友達と読み合い、感想や良いところを伝え合い、自分の見方や考え方に気付いたり、思いの深まりを感じたりする。 ⑨学習の振り返りをする。	知 ○語や文章の種類とその特徴について理解することができる。[知・技(1)カ] 書 ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表B(1)ウ] 学 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] ○事実や経験をもとに感じたことや考えたことを思い出し、学習の見通しをもって自分にとっての意味について文章に書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	4 考えを共有するために読もう 国境なき大陸 南極 5時間(読⑤) 教：6下p74～83 ◇筆者の体験と意見との関係を捉えて要旨をまとめ、自分の考えを伝え合うことで、考えを深めることができる。(知：(2)ア、 読：(1)ア、ウ、オ、 九、(2)ウ)	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②南極のイメージや知っていることを出し合う。 ③筆者の経験(事実)と意見との関係を捉える。 ④題名や取り上げられた事例、筆者の意見をもとに、要旨をまとめる。 ⑤読んで理解したことをもとに、自分の考えをまとめる。 ⑥まとめた意見をもとに伝え合い、自分の考えを深める。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 読 ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。[思・判・表C(1)ア] ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。[思・判・表C(1)ウ] 学 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ] ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ] ○進んで筆者の論の進め方を捉え、学習の見通しをもって自分の考えをもとうとする。[学びに向かう力、人間性等]
2月	言葉のきまり1 意味をそえる言葉 1時間(知技①) 教：6下p84～85 ◇助詞の意味を添える働きについて知り、その意味の違いを理解することができる。(知：(1)カ)	①教科書の例文を比べ、助詞の意味を添える働きを知る。 ②p.84の課題を通してそれぞれの助詞が添える意味の違いを考え、友達と確かめ合う。 ③p.85の解説を読み、「が」と「は」の使い分けや、その働きを知る。 ④p.85の課題に取り組み、友達と確かめ合う。	知 ○文の中での語句の係り方について理解することができる。[知・技(1)カ] 学 ○進んで助詞の働きを知り、今までの学習を生かして、文の中での語句の係り方を理解しようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
2月	<p>5 提案する文章を書いて伝えよう 日本の魅力、再発見 12時間（話聞④書⑥） 教：6下 p86～93</p> <p>◇集めた資料を関係付けながら伝えたいことを明確にした提案原稿を書き、資料を活用しながら発表し合うことができる。〔知〕：(2)イ、〔語〕：(1)エ、(2)ア、イ、〔書〕：(1)ア、イ、ウ、エ、(2)ア)</p>	<p>①学習課題とめあてを確かめ、見直しをもつ。 ②「日本の魅力」について、イメージマップを活用して考えを広げ、提案するテーマを決める。 ③学校図書館やインターネットなどを活用し、テーマに関する資料を集めたり作ったりする。 ④目的に応じて資料を関係付けたり取捨選択したりして、自分の提案を支えるための根拠を考えながら、構成表にまとめる。 ⑤構成表をもとに、pp90～91の文章を参考にしながら、提案原稿を書く。 ⑥原稿を読み直し、書き表し方や資料の説明の仕方を考えながら、推敲する。 ⑦提案原稿をもとにグループ内で発表し合い、グループの代表を決める。 ⑧クラス全体でグループごとにポスターセッションの形式で提案し合い、資料の使い方や述べ方について感想を伝え合う。 ⑨学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知・技(2)イ〕</p> <p>話 ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。〔思・判・表A(1)エ〕</p> <p>書 ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思・判・表B(1)ア〕</p> <p>○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。〔思・判・表B(1)イ〕</p> <p>○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思・判・表B(1)ウ〕</p> <p>○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思・判・表B(1)エ〕</p> <p>学 ○進んで集めた資料を関連づけて考え、学習課題に沿って提案原稿を書いて発表しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>言葉の泉 2 言葉は変わる 1時間（知技①） 教：6下 p94～95</p> <p>◇世代や時代により言葉が変化することを理解することができる。〔知〕：(3)ウ)</p>	<p>①教科書を見て、文語と口語、世代や時代による言葉の変化について知る。 ②教科書の例のほか、身の回りから昔と今の意味の違う言葉を集め、その理由を含めて考える。</p>	<p>知 ○語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や時代による言葉の違いに気付くことができる。〔知・技(3)ウ〕</p> <p>学 ○積極的に世代や時代による言葉の違いについて関心を持ち、今までの学習を生かして、言葉を適切に使おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
3月	<p>6 自分と重ねて読もう その日、ぼくが考えたこと 6時間（読⑥） 教：6下 p96～109</p> <p>◇登場人物と自分とを重ね合わせながら読み、表現の効果を確かめるとともに、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。〔知〕：(1)ケ、〔語〕：(1)エ、オ、カ、(2)イ)</p>	<p>①全文を読み、めあてを確かめる。 ②今まで読んだ物語を振り返り、印象の違いについて交流する。 ③題名や本文の出来事をもとに、全体のあらましをつかむ。 ④終結部の「ぼく」の心情を捉える。 ⑤場面の出来事や「ぼく」が考えたことを精査し、話し合う。 ⑥読んで感じたことを自分事として考え、伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。〔知・技(1)ケ〕</p> <p>読 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。〔思・判・表C(1)エ〕</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。〔思・判・表C(1)オ〕</p> <p>○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。〔思・判・表C(1)カ〕</p> <p>学 ○進んで読んで理解したことをもとに自分の考えをもち、学習課題に沿って考えを広げようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
3月	5年生で習った漢字③ 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書①) 教：6下p110 ◇5年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。 (知：(1)エ、書：(1)オ)	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉で遊ぼう 1時間(知技①) 教：6下p111 ◇言葉の分類ゲームを通して、語句の量を増し、日本語の語彙の豊かさに気付くことができる。 (知：(1)エ、才)	①教科書に挙げられた言葉を確認、それぞれの特徴を見つける。 ②見つけた特徴をもとに、言葉を分類する。 ③考えた分類の仕方を発表し合う。	知 ○第6学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] 書 ○語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 学 ○進んで語句の量を増し、課題に沿って言葉を分類しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	これからのあなたへ 支度 1時間(読①) 教：6下p112～113 ◇描写をもとに、作品の全体像や作者の問いかけによるメッセージを想像して読み、象徴されたものの意味や感想を伝え合うことで、自分の考えを広げることができる。(知：(1)ク、読：(1)カ、(2)イ)	①「支度」の作品世界を想像し、感想や表現の工夫について出し合う。 ②作品のメッセージや象徴されたものの意味を、想像しながら音読する。 ③詩の問いかけに対する自分の感想や考えを伝え合う。 ④学習の振り返りをする。	知 ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク] 読 ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで全体像や作品のメッセージを捉え、今までの学習を生かして象徴されたものの意味の解釈や感想を伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	六年生をふり返って 2時間(書②) 教：6下p114～116 ◇一年間の国語学習を振り返り、改めて考えたことや社会に目を向けて、取り組んでいきたいことを考えて書くことができる。(知：(1)ウ、書：(1)ア)	①一年間の国語学習を振り返り、学んだことやこれからも頑張っていきたいことを友達と話し合う。 ②改めて考えたことや、社会に目を向けて取り組んでいきたいことをメモに書き出し、簡単な構成を考える。 ③一年間や六年間全体を振り返る文章を書く。 ④友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑤学習を振り返り、中学校で学びたいことを話し合う。	知 ○文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。[知・技(1)ウ] 書 ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] 学 ○進んで一年間や六年間全体の国語学習を振り返り、今までの学習を生かして文章にまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]